

I. 事業概要

I. 事業概要

1. 本事業の目的

有明海はアサリやサルボウガイなどの水産有用二枚貝類の有数の生産地であり、またノリ養殖の主要な生産地であるが、近年は環境の悪化等に伴い生産が低迷している。

このため関係漁業者は原因究明や改善のための調査の実施等を求めている。平成 14 年に制定された「有明海及び八代海等を再生するための特別措置に関する法律」においても、国及び関係県は海域環境の保全、改善等のための調査や、その成果の普及等を行うこととしている。

これを踏まえ、「有明海のアサリ等の生産性向上実証事業のうち基質入り網袋、カゴ等を用いた稚貝育成技術開発及びアサリ稚貝の高密度着生・集積域からの移植技術開発事業」（以下、「本事業」という。）は、有明海における漁業の生産性を確保するために必要となる取り組みの一環として、既存の技術の応用や新たなアイデアに基づく技術を活用するものである。さらに本事業は、有明海沿岸各地の様々な特性に対応し、関係漁業者や地方公共団体による実施を目的に、より効率的かつ具体的なアサリ等の生産性向上のための技術開発等を行うものである。

2. 事業構成

本事業では、有明海における二枚貝（アサリ、カキを対象）の安定した漁業生産を確保するために、各漁場にて漁業者とともに技術開発の実証実験を行ってきた。

本報告書は、令和 3 年度に実施されたその成果を取りまとめたものである。各技術開発の効果を検証し、漁業者が自ら実施できる技術としてその実用化を検討したうえで、漁業者自らによる新たな二枚貝の生産性向上に資することを目指している。

本事業で行った技術開発は以下の大課題に大別される。

- ① 高地盤覆砂域の造成等による母貝生息適地の造成技術開発
- ② カキ礁の造成による貧酸素水塊の軽減技術開発

また、併せて「総合検討およびとりまとめ」として、本事業で得られた成果である地域特性や漁場環境情報を図化し、漁業関係者にも分かりやすく活用しやすい形での取りまとめを行った。さらに、本事業で開発した技術の効果評価や利用条件による有効性等については主に「有明海のアサリ等の生産性向上実証のうち技術検討・評価・普及等事業」（以下、「技術検討・評価等事業」という。）で取りまとめた。

本事業におけるアサリの成育段階は、初期稚貝（殻長 0.3 mm～1.0 mm）、稚貝（1 mm～15 mm）、成貝（15 mm 以上）と定義した。初期稚貝および稚貝の生残等を検討した際には、稚貝が足糸により底質の砂礫などに付着することを着底とし、着底後もその場に留まり生息したことを着生と表現し区別した。また、本事業では、ホトトギスガイが形成した泥状のマットを、ホトトギスガイマットと表現した。

本事業の年度計画における実証事業の概要を表 1 に示した。

表1 実証技術の概要

大課題	中課題	主担当	目標	月											
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
全体				現地踏査・許可可 実施計画作成											
	生産性向上のための総合検討および課題とりまとめ	マリノフォーラム 21		現地関係者間調整等 各地の状況把握、全体調整、実験補助 成果・評価等とりまとめ、報告書作成											
1	高地盤覆砂域の造成等による母貝生息適地の造成技術開発														
1-1	未利用泥干潟域における母貝保護育成地造成技術の開発 (福岡県柳川市大和高田地先)	海洋エンジニアリング	①産卵に達する群成熟度及び肥満度までの生残・成長 ②母貝場としての運用方法の開発	採苗したアサリを母貝移植(規模拡大) モニタリング・効果検証・評価 母貝飼育器で母貝を育成・漁獲 モニタリング・効果検証・評価 成果取りまとめ		採苗したアサリを母貝移植(規模拡大) モニタリング・効果検証・評価									
1-2	砂泥干潟における母貝保護育成地造成技術の開発 (熊本県宇土市住吉地先)	海洋エンジニアリング		母貝育成施設設置 稚貝採取、稚貝育成施設設置 (既設)採苗装置 (既設)小規模実験モニタリング 実用規模実験・モニタリング・効果検証・評価 母貝として確保 稚貝採取・評価 母貝採取・評価 実用規模実験・モニタリング・効果検証・評価 成果取りまとめ											
2	カキ礁の造成による貧酸素水塊の軽減技術開発														
2-1	カキ礁の造成による貧酸素水塊の軽減 (佐賀県鹿島市鹿島地先)	日本ミクニヤ	①効率的かつ実践的なカキ礁造成方法の開発 ②カキ礁造成による貧酸素水塊の軽減効果の検証 ③カキ礁の環境特性の把握	着生材準備・設置 モニタリング・着生材の評価 物質循環モデルを用いた貧酸素水塊の軽減効果の検証 流況等現地観測 流動への影響を考慮したカキ礁造成方法の検討 モニタリング結果整理・造成方法や手順の見直し・効果検証・評価											
総合検討及び事業取りまとめ															
	総合検討および事業とりまとめ	水圏科学コンサルタント	①各地域の環境特性把握 ②GISマップの構築	実施計画の作成 環境特性の検討 アサリ生息状況と環境の検討 GISマップの改良 各実証実験の成果・評価の取りまとめ 報告書作成および各実証実験の成果・評価の取りまとめ											
サンプルデータの科学分析及び解析															
	サンプル・データの科学的な分析及び解析	水産研究・教育機構	①開発技術のメカニズム解明 ②開発技術の効果評価 ③開発技術の有用性評価	サンプル・データの分析・解析 メカニズム解明 効果評価 有用性評価 報告書作成											

事業評価・とりまとめ

3. 事業実施場所

各実証実験の実施場所は、有明海沿岸に位置する福岡県柳川市地先、佐賀県鹿島市地先および熊本県宇土市の干潟等で行った。各実証実験は各県、漁業協同組合連合会、および漁業協同組合等との協議を経て、その実施場所を決定した。



図 1 本事業における実証実験の実施場所

4. 地区協議会、技術検討・評価委員会

技術検討・評価等事業受託者の求めに応じ、同受託者の開催する技術検討・評価委員会、地区協議会に出席し、事業の計画、内容、結果について説明を行った。これらの委員会等での取組内容等についての意見等（以下、「委員等意見」という。）を受けた場合には、同受託者と委員等意見の反映について十分検討した上で、事業を実施した。

事業の進捗状況については、技術検討・評価等事業の受託者の求めに応じて報告を行い、必要に応じ、同

受託者と事業内容等について点検・調整を行った。